

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

国語 科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ F組

教科担当者：

使用教科書：（ 桐原書店『探求論理国語』 ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		話・聞	書	読						
1 学期	1 評論Ⅰ ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・「ともに生きる」ことについて、自分自身のあり方も踏まえて理解を深める。	【教材名】 『いのちは誰のものか』『晴れた空の下で』	○	○	○		○	○	○	10
	定期考査					○	○			1
	論文を読む ・論文の基本的な読み方を習得する。 ・論文の内容をきっかけとして、小説『山月記』に興味を持つ	【教材名】 『返信に伴う快楽と恐れ』『山月記』を通じて『山月記』	○	○	○		○	○	○	10
定期考査						○	○		1	
2 学期	論文を読む ・論文の基本的な読み方を習得する。 ・論文の内容をきっかけとして、小説『ころ』に関心を抱く	【教材名】 『淋しい人間『ころ』を通じて』『ころ』	○	○	○		○	○	○	10
	定期考査					○	○			1
	評論Ⅱ ・二項対立による比較対象に着目し、評論の読み方を習得する。	【教材名】 『動物の信号と人間の言語』『行動としての話し言葉』	○	○	○		○	○	○	10
定期考査						○	○		1	
3 学期	評論Ⅳ ・本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむ。	【教材名】 『芸術も科学も『別世界』を見せる』『ロボットは心を持つか』	○	○	○		○	○	○	12
	定期考査					○	○			1
							○	○		合計 57

教科：公民 科目：公共

対象学年組：第2学年A組～F組

教科担当：

使用教科書：実教出版 詳述公共

教科 公民科の目標

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

科目 公共の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
現代社会の仕組みや課題について理解する。日本や世界の国々の政治制度、選挙制度について理解する。日本と世界を結び付けている経済の仕組みを理解する。青年期や倫理・哲学的な人間や社会のあり方を先人の思想を通じて学ぶ	各学習分野ごとの設定されたテーマを考え、自己の考えを明確にする。個人の考えを他者との対話を通じて深める。与えられたテーマについて自己の論旨を明確に表現する。プレゼンテーションツールを活用して他者に自己の考えを明確に伝える。1分間スピーチにおいて自らテーマを選び他者に適切に自己の考えを伝える。このような学習活動を通じて思考力・判断力・表現力を養う。	広い視野をもち、社会における現象に自ら関わろうとする態度を育成する。学習事項から自己の課題を見出し発展的な学びをしようとする態度を育成する。他者と協働して学ぶ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知 思 態 時数			
			知	思	態	時数
<p>I 公共の扉</p> <p>(1)「知識及び技能」 ・先人における人間の捉え方について理解する。・青年期の意義とその特徴について理解する。・青年期の意義と達成すべき課題について自己に結び付けて理解する。・青年もめぐる現代社会の課題について理解する。・職業生活やボランティアの意義について理解する。・先哲の思想を自己の体験に結びつけて理解する。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・個人で人間について、青年期について思考し自己の考えをまとめる。・個人の考えを他者との対話を通じて深め、他者の考え方についても学ぶ。・三大宗教について学んだ内容を踏まえ、宗教について考える。・ギリシア哲学、西洋哲学、東洋哲学の先哲の考えを踏まえて幸福、人間の尊厳、自由、人権、公正について自己の考えをまとめる。・自己の考えを他者との対話を通じて深め、広い視野を獲得する。・小論の作成を行い表現力を高める。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 ・自己に与えられた課題からより発展的な内容について自ら探究する。他者と協働して対話をする態度を修得する。・他者と協働して発表資料を作成する。・自らテーマを見つけ、スピーチを行う。</p>	<p>①社会をつくる私たち ・人間とはなにか 人間を定義する ・生涯における青年期の意義 ・青年期と自己形成 ・職業生活青年の生き方</p> <p>②人間としてよく生きる ・幸福とは何か ・ギリシアの思想 ・宗教の教え ・人間の尊重 ・人間の自由と尊厳 ・個人と社会 ・主体性の確立 ・他者の尊重 ・公正な社会</p> <p>③民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・義務</p>	<p>(1)「知識及び技能」 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。</p>	○	○	○	10
<p>II よりよい社会の形成に参加する私たち</p> <p>(1)「知識及び技能」 ・明治憲法の内容を学び、日本国憲法との違いを理解する。・日本国憲法が制定された背景とその特徴について理解する。・平和主義の内容と現状について理解する。・基本的人権の成り立ちについて理解する。・基本的人権の内容について自己にむずびつけて理解する。・基本的人権の日本および世界の状況について理解する。・日本の国会、内閣、裁判所の仕組みについて理解する。・地方自治の仕組みとその現状について理解する。・日本および世界の政治制度を比較して理解する。・選挙制度を理解し、その長所や短所を現状に即して理解する。・国民の政治参加の状況、参加する意義について当事者として理解する。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・日本国憲法の特徴をその背景を理解した上で、現状の課題について考える。・日本の政治制度について、将来の主権者の視点から問題点を見出し、改善点を考える。日本の人権状況について問題点の背景について考え、改善点を考える。・地域社会に生きる一員という意識をもって、地域課題を見出し、その改善点を考える。・日本における選挙の現状を踏まえて、その課題を見出し、改善点を考える。・政治参加する意義について考え、選挙や政治制度について分析する態度を養う。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 ・自己に与えられた課題からより発展的な内容について自ら探究する。他者と協働して対話をする態度を修得する。・他者と協働して発表資料を作成する。・自らテーマを見つけ、スピーチを行う。</p>	<p>④日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法の成立と性格 ・平和主義 ・基本的人権の尊重 ・人権の広がり</p> <p>⑤日本の政治機構と政治参加 ・政治機構と国民生活 ・人権保障と政治参加 ・地方自治 ・選挙と政党 ・政治参加と世論</p>	<p>(1)「知識及び技能」 ・日本国憲法の成立の背景について理解している。 ・二つの憲法の原理と相違点について理解している。 ・明治憲法と日本国憲法の相違点を読み取ることができる。 ・日本国憲法の基本原理について理解している。 ・憲法の最高法規性について理解している。 ・自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容について理解している。 ・冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。 ・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。・国会の役割や権限、運営について理解している。・内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。・地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解している。・政党政治や日本の政党政治の課題について理解している。・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 ・政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解している。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・死刑制度の是非について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・差別を解消すべき理由について、適切に表現している。 ・社会権の保障について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	10
<p>III 持続可能な社会づくりと私たち</p> <p>(1)「知識及び技能」 ・世界における地球温暖化等の環境の変化について理解する。・世界における人口増加とその問題を理解している。・発展途上国における人口問題と先進国における人口問題の違いを理解している。・日本における少子社会、高齢社会の背景について理解している。・少子化、高齢化の原因を他の国との違いをふまえた上で理解している。少子高齢社会の問題点を理解している。・世界における貧困の現状について理解している。絶対的貧困と相対的貧困の違いと現状を理解している。・世界における教育格差の現状を理解している。日本における教育格差について理解している。・倫理的な課題や環境倫理、社会における公正さについて理解している。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・各テーマについて、現状を分析し、課題を見出すことができる。・見出した課題について、現実的な解決策を考えることができる。・思考の過程において、必要な情報を収集し、活用することができる。・情報に関するリテラシーを身につけている。自己の考えについて反証可能性の視点から見直すことができる。自己の考えを適切な表現で文章化できる。自己の考えをプレゼンテーションツールを使って表現することができる。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 持続可能な社会づくりの学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、論理的に探究しようとする態度を養う。他者と協働して学習する態度を養う。</p>	<p>⑥地球上の課題 ・気候変動と環境の変化 ・世界の人口問題 ・少子高齢社会 ・世界の貧困と教育</p> <p>⑦倫理的な課題 ・生命倫理 ・環境倫理 ・自由と公正</p>	<p>(1)「知識及び技能」 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な知識を習得している。 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について問いを見だし、協働的に考察・構想し、それらを論理的かつ適切に表現している。</p> <p>(3)「主体的に取り組む態度等」 ・よりよい社会の実現を視野に、それぞれが選択した現実社会の諸課題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	10

年間授業計画

高等学校 令和5年度 (2学年用) 教科

数学 科目 数学Ⅱ

教科: 数学

科目: 数学Ⅱ

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者:

使用教科書: (数研出版 NEXT 数学Ⅱ)

教科 数学 の目標:

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標:

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡素・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察できるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 式と計算 【知識及び技能】 式を扱うための基本的な用語や計算方法、数の体系について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・3次式の展開と因数分解 ・二項定理 ・多項式の割り算 ・分式とその計算 ・恒等式	【知識・技能】 乗法公式や因数分解の公式についての理解をしている。 実数について理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 二項定理の公式を理解し、使えるようにする。 パスカルの三角形を理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して因数分解ができる。多項式の割り算を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい因数分解の方法について考察しようとする。多項式の割り算を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	6
B 等式・不等式の証明 【知識及び技能】 等式の意味や不等式の性質について理解する。 等式、不等式の証明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に不等式を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・恒等式の証明 ・条件付きの等式の証明 ・実数の大小関係 ・実数の平方 ・平方の大小関係 ・絶対値を含む不等式の証明 ・相加相乗平均	【知識・技能】 等式・不等式の意味や性質について理解し、証明することができる。 【思考・判断・表現】 不等式の性質をもとに証明方法を考察する。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、不等式を問題解決に活用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
C 複素数と二次方程式の解 【知識及び技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 二次方程式の解の種類と係数の関係について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用する。	・複素数とその計算 ・二次方程式の解 ・解と係数の関係	【知識・技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。 【思考・判断・表現】 2次方程式の解と係数の関係を理解し、使いこなせるようにする。与えられた2数を解にもつ2次方程式が作れる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	3
D 高次方程式 【知識及び技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求める。 【思考力、判断力、表現力等】 解と係数の関係を理解し、方程式をつくることができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・剰余の定理と因数定理 ・高次方程式	【知識・技能】 因数定理を理解し、簡単な高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 3次方程式の虚数解から係数が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数をを用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	14

2 学 期	<p>E 図形と方程式</p> <p>【知識及び技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。座標平面上の直線や円を方程式で表せることができる。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 座標平面上の図形について構成要素間構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内分点・外分点、二点間の距離 ・直線と円の方程式 ・軌跡と方程式 	<p>【知識・技能】 内分点・外分点の公式を理解し、正確に求めることができる。直線の方程式、円の方程式を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 点と直線の位置関係を理解し、方程式をつくることができる。軌跡の内容を理解し、条件から方程式をつくることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。</p>	○	○	○	17
	<p>F 三角関数</p> <p>【知識及び技能】 三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数 ・一般角、弧度法 ・三角関数とグラフ ・相互関係 ・加法定理 ・合成 	<p>【知識・技能】 三角比の定義を理解し、三角比を用いた計量を行うことができる。三角比を関数と認識し理解できる、基本的な相互関係を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値から求めることができる。加法定理を理解しそこから様々な性質を導ける。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。</p>	○	○	○	17
	<p>F 指数関数・対数関数</p> <p>【知識及び技能】 指数を正の整数から有理数への拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすること。指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。対数の意味とその基本性質について理解し、簡単な対数の計算をすること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 指数と対数を相互に関連付けて考察すること。指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指数法則 ・指数関数の値の変化とグラフ ・対数の計算 ・指数と対数の相互関係 	<p>【知識・技能】 指数の拡張の意義を理解し、指数法則を理解し扱える。グラフについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 指数と対数の相互関係を理解し、扱える。指数関数・対数関数を多面的に捉えられる。また、簡単な対数の計算ができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。</p>	○	○	○	12
3 学 期	<p>G 微分法と積分法</p> <p>【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数・導関数 ・関数の値の増減 ・極大値・極小値 ・関数とその導関数との関係 ・直線と関数のグラフの面積 	<p>【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。</p>	○	○	○	17

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

数学

科目 数学B

教科： 数学

科目： 数学B

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学B ）

教科 数学

の目標：

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

数列および統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 等差数列、等比数列に関する公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 等差数列と等比数列の両者を比較しながら理解し、またこれらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする。	・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	【知識・技能】 一般項から数列の各項、数列の各項から一般項を求めることができる。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 等差数列、等比数列の一般項について規則をもとにして考察することができる。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和の求め方について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等差数列、等比数列のそれぞれの規則をもとにして、一般項について考えようとしている。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和の求め方について考えようとしている。	○	○	○	10
	B いろいろな数列 【知識及び技能】 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列の和と一般項の関係を、数列と階差数列の関係と対応させて捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 群数列などのいろいろな数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。	・和の記号Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	【知識・技能】 Σについて成り立つ性質を理解し、それを用いて和を求めることができる。 階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、具体的に一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 1つの和を、Σを用いて様々な方法で表現することができる。 階差数列から一般項を求めるときや、数列の和から一般項を求めるときに、n=1を別に考える必要がある理由について、数値を変えたりして考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。 数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	○	○	○	16
2 学 期	C 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる。 【思考力、判断力、表現力等】 複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	・漸化式 ・数学的帰納法	【知識・技能】 漸化式の意味を理解し、数列の具体的な項を求めることができる。 数学的帰納法を用いて等式や不等式の証明ができる。 【思考・判断・表現】 複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 一般項による方法以外にも数列の項を定める方法があることに興味をもち、それらの共通点や相違点などを考察しようとする。 様々な命題の証明に数学的帰納法を活用しようとする態度がある。	○	○	○	12
	D 確率分布 【知識及び技能】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散などを求めること	・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布	【知識・技能】 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 反復試行の結果を二項分布と捉え、記号で表				

297	<p>ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>・正規分布</p>	<p>すことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。標準正規分布の期待値、分散について、既知の公式を用いて証明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。</p> <p>現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。</p>	○	○	○	14
3 学期	<p>E 統計的な推測</p> <p>【知識及び技能】 母集団と標本、標本調査について理解し、標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 標本平均について、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・推定 ・仮説検定</p>	<p>【知識・技能】 母集団分布について理解し、母平均や母標準偏差を求めることができる。仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 信頼度95%の信頼区間の求め方やその意味をもとに、信頼度99%の信頼区間を求めることができる。また、その意味について信頼区間の幅をもとに説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 母平均や母比率の推定について、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察し、それをもとに実際に適切な推定を行おうとする。</p>	○	○	○	18

年間授業計画

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 数学 科目 数学C

教科: 数学 科目: 数学C 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 A組～F組

教科担当: ()

使用教科書: (数研出版 NEXT 数学C)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学C の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係を理解するとともに、数学の発展の歴史に目撃し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を認識・説明・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	大きさを向きをもった量に着目し、演算法則やその関係性を理解する力、図や図形の構成に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を認識・説明・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A ベクトルとその演算 【知識及び技能】 ベクトルの基本性質を理解すること。平面上のベクトルの和、差、実数倍について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・有向成分とベクトル ・ベクトルの加法と減法 ・ベクトルの実数倍と平行 ・単位ベクトル ・ベクトルの分解 ・一次独立	【知識・技能】 平面上のベクトルの意味を理解し、演算ができる。 【思考・判断・表現】 演算法則を理解し、それをベクトルに関連付けられる。ベクトルの平行を理解し、単位ベクトルについて考察できる。どのようなベクトルでも必ず1通りに分解できることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	B ベクトルの成分と内積 【知識及び技能】 ベクトルの成分表示について理解すること。ベクトルの内積及びその基本性質について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質を用いて図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・ベクトルの成分表示 ・ベクトルの内積	【知識・技能】 ベクトルの成分表示を理解し、座標平面上で考察できる。 【思考・判断・表現】 ベクトルの内積を求めることができる。成分表示された内積を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
2 学期	C 位置ベクトル 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、位置ベクトルについて考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 平面上の位置ベクトルを用いて図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・平面上の位置ベクトル ・内分点の位置ベクトル ・外分点の位置ベクトル ・重心の位置ベクトル	【知識・技能】 位置ベクトルを理解し表現できる。 【思考・判断・表現】 内分点・外分点の位置ベクトルを理解し表現できる。重心の位置ベクトルを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	13
	D ベクトルの図形への応用 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルの基本性質を理解し、多面的に考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・一直線上にある点 ・2直線の交点の位置ベクトル ・三角形の重心の位置ベクトル	【知識・技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している。 【思考・判断・表現】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解し、表現できる。三角形の重心について理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
	E 図形のベクトル表示 【知識及び技能】 ベクトル方程式の意味を理解し、図形を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトル方程式の意味を理解し、図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・直線のベクトル方程式 ・平面上の点の存在範囲 ・垂直ベクトル ・円のベクトル方程式	【知識・技能】 平面上の直線のベクトル方程式をもとめることができる。 【思考・判断・表現】 方向ベクトル、法線ベクトルを理解し、表現できる。ベクトルの条件で表された点の存在範囲を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
F 空間図形 【知識及び技能】 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質などを用いて平面図形や空間図形の性質を捉えたり、多面的に考察したりすること。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・空間の点 ・空間のベクトル ・空間ベクトルの成分表示 ・空間ベクトルの内積 ・ベクトルの空間図形への応用 ・座標空間における図形	【知識・技能】 平面から空間に拡張したことを理解している。平面上の性質を空間に拡張できる。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質を空間でも表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	12	

科目（講座名）	物理基礎	2単位	必履修
教科書	物理基礎（実教）	担当教諭	
副教材	ベストフィット 物理基礎（実教出版）		

学習の目標

物理的なものの見方・考え方を身につけると同時に、より高い科学的自然観を育成する。

授業内容

物体の運動とエネルギー
 ・速度・加速度 ・さまざまな力とそのはたらき ・力学的エネルギー
 さまざまな物理現象とエネルギー
 ・熱 ・波動（波動の性質、音波）
 ・電気（静電気と電流、交流と電波）
 ・エネルギーとその利用

学習方法

演示・生徒実験等を通して、物理現象について思考する機会を多くし、理解を深める。

評価の観点

関心・意欲・態度	物理に対する関心の高さや授業に取り組む意欲・態度を観る。
科学的な 見方・考え方	自然に対して科学的な見方・考え方が養われている。
表現・処理	自分の考えを科学的に表現できる。 自然現象を物理的に処理できる。
知識・理解	物理の正しい知識を身につけている。 物理の考え方を正しく理解している。

評価方法

定期考査の成績を中心に実験レポート、授業ノート等の提出点と平常点を加味して評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	速度と加速度	直線運動の速度、直線運動の加速度、落体の運動	加速度については重要なのでその理解を深めるようにする。
	5		さまざまな力とそのはたらき	いろいろな力、力のつりあい、運動の法則、摩擦や空気の抵抗を受ける運動	力の表し方のベクトルの取り扱いに慣れるようにする。 運動の法則は物理でもっとも大切な内容なので例題で理解を助けるようにする。
	6				
	7				
2	9	28	仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー	仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存 熱と温度、熱と仕事、エネルギーの変換と保存	力とエネルギーは考えの基本が異なることに注意させる。 熱もエネルギーであることに留意させる。
	10		波の性質	波の伝わり方と種類、重ね合わせの原理と波の干渉、波の反射・屈折・回折	波の一般的な理解ができるように図を多くする。
	11		音	音の伝わり方 発音体の振動と共振・共鳴、	音も波であり一般的な波の性質があることを理解させる。
	12				
3	1	16	電気と磁気	静電気、電流、電気とエネルギー、放電 直流と交流の違い。	身近な電気について静電気から興味をもたせる。 電流の種類とその特性、利用方法などを理解させる。 エネルギーの変換と保存 原子力エネルギー
	2		エネルギー	さまざまなエネルギー エネルギーの利用	
	3				

教科：保健体育 科目：体育

対象学年組：第1学年A組～F組

教科担当：

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配 時 数
A 体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。	・縄跳び ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12
B 陸上競技 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解できるようにする。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。	・時間走と距離走のタイムトライアル	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12
C 水泳 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	・泳法指導 ・背泳ぎ ・バタフライ	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
D 球技【ハンドボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (4対4・7対7) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12
E 球技【バドミントン】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (クリア・ドライブ・ヘアピン) ・応用練習 (スマッシュ・ドロップショット) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12
F 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (キャッチボール・トスバット ティンク) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・ 走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12
G 球技【バスケットボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・5対5) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	12

教科：保健体育 科目：保健

対象学年組：第1学年A組～F組

教科担当：

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態
A 生涯を通じる健康【思春期と健康・性意識の変化と性行動の選択】 ・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ・性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択	(1)「知識及び技能」 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
B 生涯を通じる健康【結婚生活と健康・妊娠計画と健康・家族計画】 ・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。 ・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義について理解する。 ・人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	・結婚生活と健康 ・妊娠計画と健康 ・家族計画	(1)「知識及び技能」 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
C 生涯を通じる健康【加齢と健康・高齢社会に対応した取り組み】 ・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。 ・高齢社会における健康課題について理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	・加齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み	(1)「知識及び技能」 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
D 生涯を通じる健康【働くことと健康・労働災害の防止・働く人の健康づくり】 ・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・働く人における健康問題について理解する。 ・労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ・働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり	(1)「知識及び技能」 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
E 健康を支える環境づくり【大気汚染と健康・水質汚濁・土壌汚染と健康】 ・大気汚染による健康への影響について理解する。 ・地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。 ・水質汚濁による健康への影響について理解する。 ・土壌汚染による健康への影響について理解する。	・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康	(1)「知識及び技能」 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
D 健康を支える健康づくり【健康被害を防ぐための環境対策・環境衛生に関わる活動】 ・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。 ・安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	・健康被害を防ぐための環境対策 ・環境衛生に関わる活動	(1)「知識及び技能」 健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。上下水道の整備、ごみや尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
E 健康を支える健康づくり【食品の安全性と健康・食品の安全性を確保する取り組み】 ・食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。 ・食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 ・食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み	(1)「知識及び技能」 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○
E 健康を支える健康づくり【保健制度とその活用・医療制度とその活用・医薬品の制度とその活用】					

<ul style="list-style-type: none"> 保健行政の役割について理解する。 健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。 医療保険の仕組みについて理解する。 医療サービスの適切な活用方法について理解する。 医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品の制度とその活用 	<p>(1)「知識及び技能」 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>(3)「学びに向かう力、人間性等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○
<p>E 健康を支える健康づくり【様々な保健活動や対策・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。 自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり 	<p>(1)「知識及び技能」 我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている</p> <p>(2)「思考力・判断力・表現力等」 様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>(3)「学びに向かう力、人間性等」 様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○

、明る

配当
時数

3

4

3

4

4

4

4

5
4
35

年間授業計画

高等学校 令和5年度 (2学年用) 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科: 外国語 科目: 英語コミュニケーションⅡ 単位数: 4 単位

対象学年組: 第1学年 A組～F組

教科担当者:

使用教科書: (Crown English CommunicationⅡ SANSEIDO)

教科 外国語 の目標: 世界中の事象を知り様々な考え方に触れることで、自分と異なる考え方や文化を受け入れる。

【知識及び技能】 将来生きて働く「知識・技能」の習得

【思考力、判断力、表現力等】 理解していることをどう使うか、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成

【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを人生や社会に生かそうとする人間性等の涵養

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標: 各単元のトピックを理解し、自分の言葉で内容を他者に伝えたり発表できるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界中の様々な事象に触れ、知識を英語で習得することができる。その際、Listening, Readingを通して内容を理解する。理解した内容をSpeaking, Writingを通して他者にその内容を伝えたり、自分の意見を含めて共有することができる。	習得・活用・探究という学びの課程の中で、見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成し、その内容を他者の前で発表することができる。	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返ることが出来る。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞 読	話 (発 し)	話 (聴 く)	書						
1 学 期	Lesson 1 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】日本語の特有の表現について、自分の考えや英語での説明の仕方など意見交換する。 【教材】 You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○					6
	Lesson 2 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】自分が影響を受けた本等について考えや意見を交換する。 【教材】 オンライン教材等 【一人1台端末の活用】	○	○	○	○					6
	定期考査		○	○		○					1
	Lesson 3 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】日本のバリアフリーの実情について考えや意見を交換する。 【教材】 インターネット、You Tube等 【一人1台端末の活用】	○	○	○	○					6
	Lesson 4 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】自分にとって最も困難だった選択や経験について考えや意見を交換し、共有させる。 【教材】 インターネット等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○					6
定期考査		○	○		○					1	
2 学 期	Lesson 5 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】自分のメンタルの強さや強くする技術の最適な活用方法等について、意見交換する。 【教材】 オンライン教材 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○					6
	Lesson 6 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】将来の働き方や自分の職業観について、考えを仲間と共有する。 【教材】 Ted Talk・インターネット等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○					6
	定期考査		○	○		○					1
	Lesson 7 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】バイオミミクリー製品について調べ、考えさせる。自然と共生するために個人でできることなどについて考えや意見を交換する。 【教材】 National Geographic / You tube ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○					6
	Lesson 8 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】日本の男女平等の現状を共有させる。フェアトレードについて調べたことをクラスで共有する。 【教材】 Ted Talk You Tube等 【一人1台端末の活用】	○	○	○	○					6
定期考査		○	○		○					1	
3 学 期	Lesson 9 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】「ナッジ」について考えや意見を仲間と交換する。 【教材】 インターネット等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○					6
	Lesson 10 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】地球外生物の存在条件や科学的研究・発見に対する考えや意見について考えや意見を交換する。 【教材】 インターネット教材等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○					6
	定期考査		○	○		○					1

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数 単位 2

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：

使用教科書： （ 家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来 （教育図書） ）

副教材 （ 家庭科55デジタルプラス （教育図書） 教科書準拠ノート（教育図書） ）

教科 家庭 の目標：

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- 【知識及び技能】 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

1学期	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	知識	実技	評価規準	知	思	能	配当 時数							
	単元	指導目標															
1学期	4月	A編1 生活設計1	1 自分の将来を見通そう	1 人の一生と生涯発達	○	【知識及び技能】・生涯発達の見点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 【思考・判断・表現】・これからの自分の人生について想像し、話し合い、まとめたり発表したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】人生設計を他者と比較し、自分の目標設定やリスク回避について向き合う。	◎	○	○	○	4						
			2 ライフイベントと人の生き方	2 ライフプラン制作	○		【知識及び技能】・青年期の5つの自立について理解している。現代の家族の特徴について、家族機能の変化や人々の意識の変化などから理解している。・生活に関わる法律の基本的な趣旨・家庭定着を支える文化などについて理解している。 【思考・判断・表現】・生涯発達の見点から、青年期の過ごし方や、これからの家族・家庭のあり方についてや、ワーク・ライフ・バランスの観点からの職業労働のあり方について、考え、まとめたり、発表したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】・家族・家庭と社会との関わりに関心をもち、男女が協力して家族を築くという視点から自分の問題として捉えようと学習活動に取り組んでいる。	○	◎	○	○	4					
			3 目標と意思決定	3 目標と意思決定	○			○	○	○	○	○	○	○			
	5月	A編2 青年期と家族	1 これからの人生に向かって	1 家族を築くこと	○	【知識・技能】・被服の機能、衣服が健康に与える影響、三原組織や繊維の構造、平面構成と立体構成の特徴を理解している。・布の縫い方など、基礎的な技術を身に付けている。・被服の入手、管理、保管などの衣服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】・衣生活に関する学習を通して、自身の家庭について考え、まとめたり、発表したりすることができる。・資源の有効利用まで考えた衣服の購入、再利用、廃棄までの衣服計画をたてることができる。 【学びに向かう力、人間性等】・自ら衣服を製作・補修して管理する技術を身に付ける意欲が向上している。・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かし、衣生活に関する文化や背景について理解しながら、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	○	2				
			2 家族・家庭とは何だろう？	2 法律と家族・家庭	○		○	○	○	○	○	○	○				
			3 これからの家庭生活と社会	3 これからの仕事と家庭生活	○		○	○	○	○	○	○	○				
	6月	B編2 衣生活	1 衣服のはたらき	1 衣服と私たち	1 衣服の材料	○	【知識及び技能】・被服の機能、衣服が健康に与える影響、三原組織や繊維の構造、平面構成と立体構成の特徴を理解している。・布の縫い方など、基礎的な技術を身に付けている。・被服の入手、管理、保管などの衣服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】・衣生活に関する学習を通して、自身の家庭について考え、まとめたり、発表したりすることができる。・資源の有効利用まで考えた衣服の購入、再利用、廃棄までの衣服計画をたてることができる。 【学びに向かう力、人間性等】・自ら衣服を製作・補修して管理する技術を身に付ける意欲が向上している。・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かし、衣生活に関する文化や背景について理解しながら、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	2				
				2 衣服の機能	2 衣服のつくり	○		○	○	○	○	○	○				
				3 衣服と人の一生	3 衣服の手入れ	○		○	○	○	○	○	○	○			
				4 衣服の安全上の問題	4 衣服の保管	○		○	○	○	○	○	○	○			
	7月	B編2 衣生活	3 衣服の計画と管理	1 衣服を選ぶ	1 環境にやさしい衣生活	○	【知識及び技能】・自身の生活上の問題を発見し改善のための実践活動や調査・研究に必要な資料を収集・整理して具体的な計画を立てることができる。 【思考力、判断力、表現力等】・衣生活に関する学習を通して、自身の家庭について考え、まとめたり、発表したり、意見交換したりすることができる。【学習に向かう力、人間性】・家庭や地域の課題を自分ごととして捉えていくことができる。	○	○	○	○	1					
				2 衣服の手入れ	2 人にやさしい衣服	○		○	○	○	○	○	○				
3 衣服の保管				3 衣生活を支える世界	○	○		○	○	○	○	○					
◆衣服実習				4 衣生活の未来	○	○		○	○	○	○	○	○				
7月	【D編】ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動	4 これからの衣生活	1 ホームプロジェクトとは？	定期考査	○	【知識及び技能】自身の生活上の問題を発見し改善のための実践活動や調査・研究に必要な資料を収集・整理して具体的な計画を立てることができる。 【思考力、判断力、表現力等】・衣生活に関する学習を通して、自身の家庭について考え、まとめたり、発表したり、意見交換したりすることができる。【学習に向かう力、人間性】・家庭や地域の課題を自分ごととして捉えていくことができる。	○	○	○	○	1						
			2 ホームプロジェクトの計画	定期考査	○		○	○	○	○	○	○	2				
2学期	9月	B編1 食生活	1 「食べる」ということ	1 私たちの食事	○	【知識及び技能】・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。・各ライフステージの食生活の課題を把握している。・食品の表示の意味を理解している。・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。・日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的観点から理解している。・食中毒や食中毒予防について理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。	○	◎	○	○	○	1					
				2 ライフステージと食事	2 栄養素の種類		○	○	○	○	○	○	○	○			
				3 現代の食生活	3 栄養素と食品		○	○	○	○	○	○	○	○			
			10月	B編1 食生活	2 私たちが食べているもの		1 食品に含まれる栄養素	1 食品の選択	○	【知識及び技能】・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。・各ライフステージの食生活の課題を把握している。・食品の表示の意味を理解している。・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。・日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的観点から理解している。・食中毒や食中毒予防について理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。	○	◎	○	○	○	5	
							3 安全に食べるために	2 食中毒と添加物	○		○	○	○	○	○	○	○
							4 健康に食べるために	3 食中毒と添加物	○		○	○	○	○	○	○	○
	11月	B編1 食生活	3 安全に食べるために	1 何をどれだけ食べるか	1 何をどれだけ食べるか	○	【知識及び技能】・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。・各ライフステージの食生活の課題を把握している。・食品の表示の意味を理解している。・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。・日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的観点から理解している。・食中毒や食中毒予防について理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 【学習に向かう力、人間性】・食中毒予防や食品の表示の読み取りを体験し、自身の食生活の改善や作成することができる。	○	◎	○	○	○	3				
				2 献立を立ててみよう！	2 献立を立ててみよう！	○		○	○	○	○	○	○	○			
				◆調理実習	3 和風献立	○		○	○	○	○	○	○	○			
				◆調理を科学の視点で見ると	4 和風献立	○		○	○	○	○	○	○	○			
	12月	B編3 住生活	5 おいしく食べるために	1 「おいしさ」とは	1 私たちの住まい	○	【知識及び技能】・住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。・安全で快適で、環境に配慮した住生活について理解している。・ライフステージごとの住生活の変化を理解している。・住居の平面図を読み取り、住生活の設計に必要な情報を収集することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・防災、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができ、バリアフリーや地域の防災への備えについて考えることができる。・動線を考えて平面図を作成し、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】・住生活について関心をもち、将来の住まい方について、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	1				
				1 私たちの食生活と環境	2 安全な住まい	○		○	○	○	○	○	○	○			
2 食文化を継承しよう				3 快適な住まい	○	○		○	○	○	○	○	○				
◆配膳とマナー				4 住まいの課題と未来の暮らし	○	○		○	○	○	○	○	○				
12月	B編3 住生活	6 ずっと食事を楽しむために	3 これからの食生活	1 つながって暮らす	○	【知識及び技能】・住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。・安全で快適で、環境に配慮した住生活について理解している。・ライフステージごとの住生活の変化を理解している。・住居の平面図を読み取り、住生活の設計に必要な情報を収集することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・防災、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができ、バリアフリーや地域の防災への備えについて考えることができる。・動線を考えて平面図を作成し、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】・住生活について関心をもち、将来の住まい方について、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	1					
			◆配膳とマナー	2 快適に暮らす	○		○	○	○	○	○	○	○				
12月	B編3 住生活	4 住まいの課題と未来の暮らし	1 持続可能な住まいへ	1 持続可能な住まいへ	○	【知識及び技能】・住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。・安全で快適で、環境に配慮した住生活について理解している。・ライフステージごとの住生活の変化を理解している。・住居の平面図を読み取り、住生活の設計に必要な情報を収集することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・防災、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができ、バリアフリーや地域の防災への備えについて考えることができる。・動線を考えて平面図を作成し、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】・住生活について関心をもち、将来の住まい方について、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	1					
			2 これからの暮らし方を考える	2 これからの暮らし方を考える	○		○	○	○	○	○	○	○				
12月	B編3 住生活	定期考査	定期考査	定期考査	○	【知識及び技能】・住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。・安全で快適で、環境に配慮した住生活について理解している。・ライフステージごとの住生活の変化を理解している。・住居の平面図を読み取り、住生活の設計に必要な情報を収集することができる。 【思考力、判断力、表現力等】・防災、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができ、バリアフリーや地域の防災への備えについて考えることができる。・動線を考えて平面図を作成し、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】・住生活について関心をもち、将来の住まい方について、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	○	○	1					

3 学 期	1 月	C編1 経済計画	1 家計とお金の将来を考えよう	1 家計と社会のかかわり 2 将来の経済計画を考えよう ◆家計の金融資産	○ ○ ○	【知識及び技能】・家計と経済生活の関わり、家計における収入と支出、現金とマイクローレシのしくみの違い、金融商品とその特徴について理解している。・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】・家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションができるようになる。	◎ ○ ○	2
		C編2 消費生活	1 何をどうやって買う？	1 私たちの消費生活 2 契約の重要性 3 消費者信用のしくみ	○ ○ ○	【知識及び技能】・さまざまな契約のしくみ、未成年と成年の法律上の違い、消費者保護のしくみや、消費者問題の原因、消費者の責任を理解した消費行動をとることが出来る。・消費者の権利と責任を理解し、資源・環境を考えた消費行動ができる。・契約や消費者信用、多重債務などの問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる。 【思考力・判断力・表現力等】・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、具体的な事例を通して、消費者問題や消費者の責任・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、話し合ったり発表することができる。	○ ◎ ○	1
			2 かしこい消費者になろう	1 消費者問題の現状と課題 2 消費者保護のしくみ 3 消費者の権利と責任	○ ○ ○	【学びに向かう力、人間性等】・消費者問題について自分ごととして捉えて対策を考えようとしている。	○ ○ ◎	1
	C編3 環境	1 環境問題を考える	1 暮らしをふり返る 2 さまざまな環境問題 3 社会の取り組み	○ ○ ○	【知識及び技能】・環境問題についての基礎的な知識を身に付けている。・国際的視点にたった地球環境への影響、理念だけでなく実質的行動に移すことの重要性を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、具体例を収集し、まとめたり、発表したりできる。・自分の生活と環境のつながりについて考えている。	○ ○ ◎	1	
		2 私たちができること	1 持続可能な消費 2 行動し、発信する	○ ○	【学びに向かう力、人間性等】・具体的な事例を通して環境負荷の少ない生活について考え、自らの生活意識やライフスタイルを見直そうとしている。	○ ○◎	1	
	2 月	A編3 保育	1 子どもの成長を見つめる	1 子どもの成長と保育 2 発達と発育 3 人とのかかわりと心の発達 4 子どもと遊び	○ ○ ○ ○	【知識及び技能】・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義、子どもの生活の要素、保育者の役割、子どもを取り巻く社会や環境整備、子どもの権利と福祉について理解している。・現代の子どもの子どもを取り巻く環境の変化と課題について考えることができる。・だっこや子どもを遊ばせる基本的な技術を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめたり、発表したりすることができる。・現代の子どもの子どもを取り巻く環境の変化や課題についてまとめたり、発表したりすることができる。・子どもの生活や遊びについて調査・観察したことをまとめたり発表したりすることができる。	○ ○ ○ ○	2
			2 子どもの生活と保育	1 子どもの生活と親の役割 2 生活習慣と人とのかかわり 3 子どもの生活と健康・安全	○ ○ ○	【学びに向かう力、人間性等】・子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。・保育における親や社会の果たす役割について考えようとしている。・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、自分ごととして学習に取り組んでいる。	○ ○ ○	2
		◆保育実習		○		○	○	2
	3 月	A編4 高齢期	3 これからの子育て環境	1 現在の日本の子育て事情 2 子育てを支えるしくみ 3 子どもの権利と福祉 4 これからの子育て	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	2
			1 高齢期ってどういう時期？	1 高齢者とは 2 高齢期の心身の変化 3 高齢期の健康 4 高齢期の生活	○ ○ ○ ○	【知識及び技能】・高齢者の心身の特徴、我が国の高齢化の特徴と高齢者福祉の現状と課題、高齢者の生活を支える制度や地域社会のしくみ、認知症の特徴や対応方法を理解している。日常的な介護技術の基本と実践する際の心構えを身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く社会の課題と改善についてインターネットなどを活用して調査したり発表したりすることができる。祖父母や身近な高齢者から生きがいや社会参加、健康問題などの現状を聞き取り、まとめたことを発表することができる。	○ ○ ○ ○	2
		2 高齢化する日本を生きる	1 高齢化の現状 2 超高齢社会の課題 3 安心できる暮らしを支える	○ ○ ○	【学びに向かう力、人間性等】・祖父母や身近な高齢者とふれ合う意欲と姿勢がある。・高齢者の自立と尊厳について、高齢者の立場に立って理解し意欲的に学習に取り組もうとしている。	○ ○ ○	1	
	A編5 共生社会	1 共生とは何か 2 ノーマライゼーションとは	1 共生社会とは何か 2 リスクに備える 1 ノーマライゼーション	○ ○ ○	【知識及び技能】・ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなどの理念、社会保険制度や公的年金制度について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】・共生社会の重要性について考え、身の回りの事例を調べて発表することができる。【学びに向かう力、人間性等】共生社会実現のために、自分に何ができるかを考えようとしている。	○ ○ ○	1	
	学年末考査				○ ○ ○		○ ○ ○	1
	合計							70

高等学校 令和5年度（2学年） 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科：地理歴史 科目：世界史探究 単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 A組～D組

教科担当者：

使用教科書：（山川出版社「世界史探究 詳説世界史」）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に理解するとともに、調査や資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連性、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して認識される日本国際としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して認識される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A. 世界史へのまなざし</p> <p>【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 世界史へのまなざしについて主体的に関わり、見直しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。</p>	<p>世界史へのまなざし① 世界史へのまなざし②</p>	<p>【知識・技能】 ・人類の誕生と地球規模での拡散・異動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解している。 ・衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象を基に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察している。 ・諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	8
<p>B. 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>【知識及び技能】 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の文明について主体的に関わり、見直しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。</p>	<p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p>	<p>【知識・技能】 諸地域の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】 様々な資料をもとに、富や地位の差が生まれていた背景や原因、当時の政治や支配のあり方、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	16
<p>1 学期中間考査</p>			○	○		1
<p>B. 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>【知識及び技能】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解すること。 南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解すること。 西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解すること。 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成について理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 概ね8世紀以前の諸地域の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色、宗教を基盤とした国家の特徴、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質の形成について主体的に関わり、見直しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。</p>	<p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p>	<p>【知識・技能】 概ね8世紀以前の世界について、諸地域がそれぞれのようにして独自の世界を形づくっていったのかを、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】 概ね8世紀以前の世界について、様々な資料をもとに、それぞれの社会の特徴や近隣諸国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の歴史的特質の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	24
<p>1 学期期末考査</p>			○	○		1

高等学校 令和5年度（2学年用）教科 地理歴史科 科目 日本史探究

教科：地理歴史科 科目：日本史探究

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 A組～ F組

教科担当者：

使用教科書：（日本史探究『詳説日本史』）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】日本列島の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】歴史事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念的に理解し、多面的・多角的に考察したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】歴史事象について、主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在のつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	第1章 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、堅穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 文化の始まり 日本列島と日本人／旧石器人の生活／縄文文化の成立／縄文人の生活と信仰 2 農耕社会の成立 弥生文化の成立／弥生人の生活／小国の分立／邪馬台国連合	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第2章 古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 【思考力、判断力、表現力等】 ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 古墳文化の展開 古墳の出現とヤマト政権／前期中期の古墳／東アジア諸国の交渉／大陸文化の受容／後期の古墳／古墳時代の人々の生活／ヤマト政権と政治制度／古墳の終末 2 飛鳥の朝廷 東アジアの動向とヤマト政権の発展／飛鳥の朝廷と文化	【知識・技能】 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学期	第3章 律令国家の形成 【知識及び技能】 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	3 律令国家の形成 律令国家への道／平城京の時代／律令国家の文化／律令国家の変容	【知識・技能】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 【思考・判断・表現】 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	第4章 貴族政治の展開 【知識及び技能】 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	4 貴族生活の展開 摂関政治／国風文化／地方政治の展開と武士	【知識・技能】 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>【知識及び技能】 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。</p>	<p>5 院政と武士の躍進</p> <p>院政の始まり 院政と平氏政権</p>	<p>【知識・技能】 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。</p>	○	○	○	20
	<p>第6章 武家政権の成立</p> <p>【知識及び技能】 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。</p>	<p>6 武家政権の誕生</p> <p>鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化</p>	<p>【知識・技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。</p>	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計
							137

高等学校 令和5年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 地理探究

教科：地理歴史 科目：地理探究 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 E 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ ）

教科 地理歴史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に、議論したりする力を養う。	地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的多角的な考察や深い理解をする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 地形・気候の成因と地域性を理解し、地形と気候が人間生活に与える影響を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 地形と人間の関係、気候と人間の関係を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 地形や気候を正しく理解し、その利用と危険回避について、人類にとっての福祉と幸福の観点から考えることができる。	・第1章 自然環境①	【知識及び技能】 ・各地形の形成過程とその土地利用を概ね理解している。 ・大気の循環と各地の気候の関連性について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地形や気候が人間を含めた生態系と深いかわりがあることを理解し、これらの自然環境と上手に付き合うことの重要性を認識している。 【学びに向かう力、人間性等】 地形と気候との賢い人類の付き合い方を、自らも関わる人類の課題として捉えている。	○	○	○	24
定期考査			○	○	○	1
A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 日本の自然環境に関する諸事象の特色を理解できる。地球環境問題の現状と課題を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の自然環境と防災・減災との関係性を理解し、自然災害への対処法などを多角的に考察できる。 ・地球環境問題への対応策を多面的・多角亭に考察し、それを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 防災・減災・地球環境問題を自分の問題として捉え、自ら行動できる。	・第1章 自然環境②	【知識及び技能】 日本の自然環境に関する諸事象の特色を理解している。地球環境問題の現状と課題を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の自然環境と防災・減災との関係性を理解し、自然災害への対処法などを多角的に考察している。 ・地球環境問題への対応策を多面的・多角亭に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 防災・減災・地球環境問題を自分の問題として捉え、自ら行動しようとしている。	○	○	○	8
A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 農林水産業に関する諸事象の規則性、傾向性を理解する。食料問題の現状と解決への取り組みなどについて理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 農林水産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 農林水産業・食料に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第2章 資源と産業①	【知識及び技能】 農林水産業に関する諸事象の規則性、傾向性を理解している。食料問題の現状と解決への取り組みなどについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 農林水産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 農林水産業・食料に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	16
定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>A. 現代世界の系統地理的考察</p> <p>【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。</p>	・第2章 資源と産業②	<p>【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、自ら解決のため行動する姿勢が見られる。</p>	○	○	○	10
	<p>A. 現代世界の系統地理的考察</p> <p>【知識及び技能】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 交通・通信と観光、貿易に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。</p>	・第3章交通・通信と観光、貿易	<p>【知識及び技能】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 交通・通信と観光、貿易に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。</p>	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
	<p>A. 現代世界の系統地理的考察</p> <p>【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。</p>	・第4章人口、村落・都市	<p>【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。</p>	○	○	○	12
	<p>A. 現代世界の系統地理的考察</p> <p>【知識及び技能】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生活文化・民族・宗教に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。</p>	・第5章生活文化、民族・宗教	<p>【知識及び技能】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生活文化・民族・宗教に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>B. 現代世界の地誌的考察</p> <p>【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。</p> <p>・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。</p> <p>・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。</p>	・第1章現代世界の地域区分 ・第2章現代世界の諸地域	<p>【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。</p> <p>・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。</p> <p>・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。</p> <p>・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。</p>	○	○	○	37
	<p>C. 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p>	・第1章持続可能な国土像の探究	<p>【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題につ</p>				

<p>【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようとしている。</p>	<p>※進捗の関係や進路希望によって、指導の順序や配当時間の変更の可能性もある。</p>	<p>いて、多角的で客観的な視点を身に付けようとしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようという姿勢が見られる。</p>	○	○	○	3
定期考査			○	○	○	1
						合計
						145

科目（講座名）	化学		4単位	必修選択
教科書	改訂 化学（東京書籍）		担当教諭	
副教材	ニューグローバル化学基礎＋化学（啓林館） ニューステージ化学図表（浜島書店）			

学習の目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

授業内容

「物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質」、「化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡」、「無機物質の性質や反応」、「有機化合物の性質や反応」、「高分子化合物の性質や反応」、について観察、実験などを通して探究し、理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。

学習方法

- ・教科書を通して、基本的な知識の定着をはかる。
- ・問題集により演習を行い、反復練習により、確かな学力を身につける。
- ・観察、実験を通して基本的な原理・法則を理解する。

評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ ・授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行う
科学的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について科学的な捉え方ができる ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる ・発展的な内容について思考を展開させられる
表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・実験操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である ・実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している ・知識を用いて発展的な応用ができる

評価方法

定期考査及び平常点（提出物（ノート、レポート等）、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	6	物質の状態変化	物質の状態と粒子の熱運動、状態変化	物質の状態とその変化について、エネルギーとの関係に着目し、構成粒子の挙動から考察する。 一定量の気体について、体積、圧力、温度がある定数で関係づけられることを学習する。 物質が溶媒に溶解するしくみと溶解度を学習する。 化学反応に伴う熱の放出や吸収について、そのしくみや量的関係について学習する。 電池の基本的なしくみと電気分解について学習する。 反応の速さと反応物の濃度、圧力、温度との関係について学習する。	
		6	気体の性質	気体の体積の変化 気体の状態方程式		
	5	4	固体の構造	結晶と化学結合		
		1 2	溶液の性質	溶解平衡と溶解度 希薄溶液の性質		
6	8	8	化学反応と熱・光エネルギー	反応熱とエンタルピー 光とエネルギー ヘスの法則		
		1 0	化学反応と電気エネルギー	電気分解 電池		
	7	6	反応速度	反応の速さ 化学反応と触媒		
2	9	1 6	化学平衡	化学平衡とその移動 電離平衡	化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的関係の変化などについて学ぶ。 周期表と元素の性質を学んだ後、非金属元素の単体や化合物の性質を学ぶ。 典型金属元素の単体や化合物について、その性質や用途を学ぶ。 金属元素の多くが属する遷移元素の単体や化合物について、その性質や用途を学ぶ。 無機物質の特徴と、私達の生活における利用法を学ぶ。 有機化合物の基本的な化合物である炭化水素のうち鎖式炭化水素と脂環式炭化水素、酸素を含む有機化合物の構造と性質を学ぶ。	
		10	1 0	非金属元素と周期表		周期表と元素の性質 水素と希ガス、酸素・硫黄、窒素・リン、炭素・ケイ素とその化合物
	11	6	典型金属元素	アルカリ金属、2族元素、アルミニウム・亜鉛などとその化合物		
		8	遷移元素	遷移元素の特徴 金属イオンの分離と確認		
	12	4	生活と無機物質	金属の利用 セラミックス		
		6	脂肪族炭化水素、	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、		
		6	6	酸素を含む脂肪族化合物		アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル

3	1	8	芳香族化合物	芳香族炭化水素、酸素、窒素を含む芳香族化合物	芳香族炭化水素を始め、芳香族化合物の性質を学ぶ。
		5	生活と有機化合物	医薬品、染料と洗剤、糖類とアミノ酸	医薬品などの有機化合物と生活との関わりを化学的な面から学ぶ。
	2	19	高分子化合物	高分子化合物の分類と特徴	石油から人工的につくられた合成繊維やプラスチックの製法や構造、性質、用途などを学ぶ。天然高分子化合物とそれを構成している
	3			合成高分子化合物 天然高分子化合物 生活と高分子化合物	化合物の構造や性質について、化学的な面から学ぶ。